

オープンソースカンファレンス 出展のご案内

協賛・後援

OSC出展のメリット

- 認知度の向上
- 潜在顧客への製品やサービスの紹介
- ユーザーの声など情報収集
- OSSコミュニティ関係者との交流
- OSCを通じたOSSコミュニティ活動のサポート
- 企業間交流
- 若手エンジニア、マーケ担当のトレーニング
- テストマーケティング
- 人材採用

主な出展者層(1)

- 企業

サービス提供、製品販売、製品開発、人材派遣
(ハード、ソフト、コンサル、ウェブ、運用管理保守、クラウド等)

- 団体

NPO法人、業界団体

- コミュニティ

勉強会、開発コミュニティ、ユーザーコミュニティ、個人

3

主な来場者層(2)

- ユーザー

社内に導入する製品やサービスを探している

- 顧客に提案する側の人

顧客に紹介する製品やサービスを探している

- エンジニアや開発者

最新の技術情報を収集している

- 情報系の学生

IT業界の情報を収集している

4

主な来場者層(3)

■システム系企業

- ・NEC
- ・富士通
- ・日立製作所
- ・東芝
- ・三菱電機

■SI企業

- ・富士ソフト
- ・TIS
- ・大塚商会
- ・京セラコミュニケーションシステム
- ・ヤマトシステム開発
- ・SRA

■通信・Webサービス系企業

- ・NTT
- ・ヤフー
- ・ソフトバンク
- ・GMOインターネット
- ・さくらインターネット
- ・ディー・エヌ・エー
- ・GMO
- ・サイバーエージェント
- ・IIJ
- ・NHNテコラス

※その他、ユーザー企業、大学等教育機関多数

参加者の主な所属企業(来場者アンケートより)

※順不同

※関連会社を含みます。

5

OSCで実施可能な内容

- OSC Webサイトへのロゴと社名の掲載、指定サイトへのリンク
- セミナーでの製品・サービス、事例などの紹介
- 展示ブースでの製品やサービスの紹介、資料の配布
- 来場者全員に対する資料の配布
- 独自のアンケートの実施やデータの収集
- 技術者の募集などリクルート活動

6

募集要項

- 申込資格
 - OSSに関わる企業・団体・法人などの組織
- 出展内容
 - 展示スペース:長机1~2台
 - 会場、協賛レベルによって異なります。
 - セミナー:45分間
- 出展費用
 - 開催、協賛レベルにより異なります(別スライド)

7

OSC2016 開催実績

	イベント名(地域)	日程	来場者数予測(実績)	会場
1	OSC2016 Hamanako(浜松)※地域開催	1/23	130名(130名)	浜松市市民協働センター
2	OSC2016 Enterprise@Osaka(大阪)	1/29	200名(200名)	ナレッジキャピタル(グランフロント大阪)
3	OSC2016 Tokyo/Spring(東京)	2/26-27	1,400名(650+900名)	明星大学 日野キャンパス 26号館
4	OSC2016 Gunma(群馬)※地域開催	5/14	100名(185名)	高崎LABI Gate
5	OSC2016 Nagoya(名古屋)	5/28	500名(500名)	吹上ホール(名古屋市中小企業振興会館)
6	OSC2016 Hokkaido(北海道)	6/17-18 ※1.5日	600名(110+500名)	札幌コンベンションセンター
7	OSC2016 Okinawa(沖縄)	7/2	150名(130名)	沖縄コンベンションセンター
8	OSC2016 Kyoto(京都)	7/29-30	1,200名(350+650名)	京都市ササチパーク
9	OSC2016 Enterprise(東京)	9/1	400名(370名)	TKP渋谷カンファレンスセンター
10	OSC2016 Shimane(島根)※地域開催	9/24	100名(180名)	松江テルサ
11	OSC2016 Niigata(新潟)	10/1	130名(100名)	まちなかキャンパス長岡
12	OSC2016 Tokyo/Fall(東京)	11/5-6(土日)	1,400名(850+500名)	明星大学 日野キャンパス 28号館
13	OSC2016 Fukuoka(福岡)	11/19	400名(300名)	福岡ソフトリサーチパーク
14	OSC2016 Hiroshima(広島)	11/27(日)	170名(210名)	サテライトキャンパスひろしま

※青字は2日間開催

※1.5日→初日はセミナーのみ半日開催

※地域開催→地域主導開催・協賛募集なし(または限定的な協賛募集)の見込み

※来場者数はプログラムの配布数でカウント

8

OSC2017 開催実績

	イベント名(地域)	日程	来場者数予測(実績)	会場
1	OSC2017 Osaka(大阪)	1/27-28 ※1.5日	500名(90+400名)	大阪産業創造館
2	OSC2017 Hamanako(浜松)※地域開催	2/12(日)	130名(140名)	浜松市市民協働センター
3	OSC2017 Tokyo/Spring(東京)	3/10-11	1,400名(600+700名)	明星大学 日野キャンパス 26号館
4	OSC2017 Nagoya(名古屋)	5/27	500名(500名)	名古屋市中小企業振興会館
5	OSC2017 Okinawa(沖縄)	6/17	130名(100名)	沖縄県市町村自治会館
6	OSC2017 Hokkaido(北海道)	7/14-15 ※1.5日	600名(80+500名)	札幌コンベンションセンター
7	OSC2017 Kyoto(京都)	8/4-5	1,000名(300+450名)	京都リサーチパーク
★	Open Developers Conference(東京)	8/19-20	300名(250+150名)	日本工学院専門学校(蒲田)
8	OSC2017 Chiba(千葉)※地域開催	9/2	100名(100名)	千葉工業大学
9	OSC2017 Tokyo/Fall(東京)	9/9(土)-10(日)	1,400名(650名+450名)	明星大学 日野キャンパス
10	OSC2017 Fukuoka(福岡)	10/7	300名(400名)	福岡大学
11	OSC2017 Shimane(島根)※地域開催	10/14	100名(100名)	松江テルサ
12	OSC2017 Nagaoka(長岡)	10/28	100名(120名)	長岡技術科学大学
13	OSC2017 Hiroshima(広島)	11/26(日)	200名(200名)	サテライトキャンパスひろしま
14	OSC2017 Enterprise(東京)	12/8(金)	400名(350名)	TKP渋谷カンファレンスセンター

※青字は2日間開催

※1.5日→初日はセミナーのみ半日開催

※地域開催→地域主導開催・協賛募集なし(または限定的な協賛募集)の見込み

※来場者数はプログラムの配布数でカウント

★Open Developers Conference 初開催。

開発をテーマとしたイベント

現状の課題

■各種勉強会、カンファレンス開催の増加

近年、東京以外の各地方都市でも各種勉強会、カンファレンスが開催されているため、相対的にOSCへの参加意欲が薄れている。また、日程的にも接近、または同日開催などで来場者を分けてしまっているケースもある。

■エンジニアの興味分野の多様化

上記理由と合わせて、エンジニアの興味がインフラから開発、サービスまで多岐に渡るようになり、またOSSであることが当たり前、意識されなくなったため、OSSプロダクト、ソリューションに対する興味が相対的に低下している。

今後の対応

■招待講演枠による旬なトピックのセミナー開催

従来OSCは協賛、またはコミュニティ出展のみでしたが、旬なトピックについて話していただける講師を招聘する招待講演枠を設けて、来場者が参加したいコンテンツの充実を図っていきます。コンテンツにはIoTやAI、ビッグデータなどのほか、就職・転職を意識したものも含まれます。

■来場者層の組織化

従来組織化を行わずにイベントドリブンでの開催を行ってききましたが、今後ベース集客層を確保するためにOSPとして組織化を図っていきます。これには各地域の企業や学校も含まれます。企業や学校単位での参加では大幅な来場者アップが見込めます。

11

OSC2018 開催計画

	イベント名(地域)	日程	来場者数予測(実績)	会場
1	OSC2018 Osaka(大阪)	1/26-27 ※1.5日	500名	大阪産業創造館
2	OSC2018 Hamanako(浜松)※地域開催	2/12(日)	140名	浜松市市民協働センター
3	OSC2018 Tokyo/Spring(東京)	2/23-24	1,400名	明星大学 日野キャンパス 26号館
4	OSC2018 Nagoya(名古屋)	5/19	500名	名古屋市中小企業振興会館
5	OSC2018 Okinawa(沖縄)	6/16	130名	沖縄コンベンションセンター
6	OSC2018 Hokkaido(北海道)	7/6-7	600名	札幌コンベンションセンター
7	OSC2018 Kyoto(京都)	8/3-4	800名	京都リサーチパーク
8	OSC2018 Tokyo/Fall(東京)	9-11月	1,400名	未定
9	OSC2018 Fukuoka(福岡)	未定	350名	未定
10	OSC2018 Hiroshima(広島)	未定	200名	未定
11	OSC2018 .Enterprise(東京)	未定	400名	未定

※青字は2日間開催

※1.5日→初日はセミナーのみ半日開催

※地域開催→地域主導開催・協賛募集なし(または限定的な協賛募集)の見込み

※来場者数はプログラムの配布数でカウント

12

協賛費用と協賛特典

協賛 種別	1日開催 ※会：北海道 ※臨：大連	2日間開催 (東京・京都)	エンター プライズ東京 /OSO大阪※	社名・ロゴ 掲載	展示	セミナー	資料配布 [来場者全員]	資料配布 [カタログコーナー]	アンケート結果
プラチナ	¥200,000～	¥400,000～	¥300,000～	○	○	○	3点まで	3点まで	集計結果 メールアドレス
ゴールド	¥100,000	¥200,000	¥150,000	○	○	○	2点まで	3点まで	集計結果 メールアドレス
シルバー	¥50,000	¥100,000	¥75,000	○	○	×	1点まで	3点まで	集計結果 メールアドレス
ロゴ	¥20,000	¥30,000	¥30,000	○	×	×	1点まで ※2017.8からの 追加特典	×	集計結果
スタンプラリーポイント設置(主に2日間催で実施)				プラチナスポンサー:無料			その他種別:有料オプションにて提供		

- ・ ロゴ掲載(Webサイトと配布プログラムへの掲載)
- ・ 展示スペース(長机1～2台。会場、協賛種別による)
- ・ セミナー(45分間1コマ。2日間開催も同様)
- ・ その他(ご要望に応じてお見積り。PR企画、セミナー2コマ、展示スペースの拡張など)
- ・ 資料配布[来場者全員](受付で配布プログラムと一緒に来場者にお渡します)
- ・ 資料配布[カタログコーナー]('ご自由にお持ちください)のスペースに設置)
- ・ 来場者アンケート集計結果のご報告
- ・ パーミッション付きメールアドレスリスト(メールアドレスのみ)

※税別表記です
※OSCエンタープライズと大阪開催は通常と費用設定が異なります。

※年間協賛につきましては、別途ご相談ください。

13

OSC .エンタープライズ[東京]

- ・ 来場者が業務参加しやすい平日、交通の便がよい会場。
- ・ 企業におけるOSS利用に関する最新情報を提供。

クラウド、オープンソースDB、Webアプリケーション/サービス、スマートフォン/タブレット
ビッグデータ、企業向けOSSソリューション/サポート

	エンタープライズ	通常のOSC
会場 →	都心でアクセスしやすさ重視	大学や公共施設。サイズ重視
曜日 →	平日	土曜日(2Daysは金土/土日)
出展者 →	企業メイン	コミュニティと企業
来場者層 →	業務として参加	プライベートで参加

OSC2013 .エンタープライズ東京 400名
OSC2014 .エンタープライズ大阪 200名
OSC2014 .エンタープライズ東京 400名
OSC2015 .エンタープライズ東京 400名
OSC2016 .エンタープライズ大阪 200名
OSC2016 .エンタープライズ東京 400名

【2017年から変更】
大阪開催は、「OSC2017 Osaka」として開催。
Enterpriseの規模を拡大し、より広範囲の来場者の
取込み、また大阪地域でのOSSコミュニティ活動支
援を行います。

14

展示ブース



用意しているもの

- 長机 1～2台、イス 1～2脚
- 電源(容量は1ブースにつき、ノートPC 1～2台程度まで)
- 出展者名の印刷された用紙(A3サイズ)2枚。
(別途パネル、テーブルクロスなどを利用可能)

展示ブースで実施できること

- デモ、ユーザーへの説明、アンケート調査、CD・DVD・パンフレット・チラシなどの配布、ノベルティの配布など
- 書籍、グッズなどの物品販売(会場によってはできません)

注意事項

- ネットワークが利用できる会場もありますが、不安定な場合や接続制限のある場合があります。ネットワーク接続を利用しないデモ環境をご用意ください。
- 壁への貼り紙ができない会場があります。
- 会場によって、壁寄せ、対面式、島型などレイアウトが異なります。

15

セミナー



用意しているもの

- プロジェクター
- スクリーン(※モニターの場合もあります)
- マイク(※部屋のサイズにより、マイクがない場合があります)

ご講演に関して

- ノートPC、レーザーポインターなどは各自でご準備ください。
- ネットワークが利用できる会場もありますが、不安定な場合や接続制限のある場合があります。ネットワーク接続を利用しないデモ環境をご用意ください。
- 司会はおりません。開始時間にスタートし、時間内に終了してください。
- プレゼンの文字は大きめに設定してください。
- Q&Aは、セミナー時間内か終了後展示ブースなどで行ってください。
- アンケートなどは、時間内で行ってください。
- 事務局では資料の印刷は行いません。各自印刷していただくか、開催前または開催後にOSC Webサイトで公開可能です。

16

Webサイト 社名・ロゴ掲載例

OSC公式 Webサイトへの掲載

←トップページ

↓展示ブース一覧



17

当日配布プログラム ロゴ掲載例



当日配布のプログラムへのロゴ掲載

18

プラチナスポンサー特典

- ロゴ掲載位置が最上段(ウェブ、配布プログラム)
- スタンプラリーポイント設置
 - 展示ブース立ち寄り数がアップ
 - 設置団体、来場者からも好評
 - 展示ツアーでの立ち寄り
- 展示ブースのスペース優遇
- その他 ご相談に応じて



スタンプラリー開催	ゴール人数	イベント来場者数
2017 Kyoto	110/130	300/450
2017 Nagoya	200	500
2017 Tokyo/Spring	170/220	600/700
2017 Osaka	130	400

19

特典: ライトニングトーク(LT) by OSCスポンサー

スポンサーの要望・・・LTで効果的にPRしたい

※コミュニティのLT(イベント最終枠)はビジネス宣伝NGのため



スポンサーのPRができるLT枠を設定

- 東京・京都で実施
- 12:00～のセミナー枠を利用

エントリー条件

- ✓ OSCスポンサー(協賛・後援)であること
- ✓ 製品やサービスの単なる宣伝ではなく、オリジナリティのある面白い取り組みなどの発表であること

20

特典：資料配布

■資料の配布

リーフレット、カタログ、チラシなど

●来場者全員配布

- 100～1,100枚(開催規模による)
- プログラムとセットで受付で手渡し



●カタログコーナー

- 30～50枚(開催規模による)
- 会場内の「ご自由にお持ちください」のコーナーに設置

※配布枚数・送付先などは、開催の4週間前にPDF資料でご案内
※セミナーや展示ブースでの配布は自由

21

その他の特典

ご要望に応じて特典をアレンジ可能です

- セミナー枠の追加
- 展示スペースを拡張
- 大抽選会(じゃんけん大会)の景品提供
- 企画セッションなどの調整
- スタンプラリーのポイント設置

お見積もりいたします。
お気軽にご相談ください

22

目的別OSC参加スタイル

- 担当者トレーニング
- テストマーケティング
- 企業間交流
- 人材採用 など

→OSCは出展者の目的に合わせて参加できる、自由の
高いイベントです

23

OSC活用例(企業間交流)

出展者同士のコミュニケーションが、協業やビ
ジネスに繋がる

- パートナーマッチング
- 案件リードの創造

→OSCの懇親会の場もご活用ください
→個別のご相談も受け付けしております

24

OSC活用例(担当者トレーニング)

OSCを通じて経験できること

- 自社製品・サービスの見せ方、伝え方を考える
- 若手エンジニアの対人コミュニケーションの向上
- プレゼンテーションの場慣れ、フィードバック
- 他の出展者との交流で視野が広がる
- 内部・外部との調整、手配の経験

→新入社員、若手の担当者などで、OSC運営スタッフを経験することでイベント実務を習得させたい場合は、ご相談ください

25

OSC活用例(テストマーケティング)

セミナー講演のフィードバック

- 聴講者の反応を試せる機会
- 本番のプレゼン精度を上げることができる

展示ブースでのデモ環境・資料などの作成

- デモの見せ方の練習
- 配布用のリーフレット、ノベルティ、POPなど

→後日の営業やイベント用に準備

→個別のご相談も受け付けています

26

OSC活用例(人材採用)

リクルーティング活動

- 展示ブース、セミナーで人材募集
- 学生インターンの募集
- 新卒・中途採用の人材発掘

→自由に行っていただけます

27

開催までのスケジュール

日程	主なスケジュール	内容説明
3ヶ月前	・出展者募集開始 ・申込みファイルを事務局に提出	出展名/展示/セミナー内容などを 入力。ロゴデータを送付。
7週間前	・出展者申込みの締切	事務局でセミナー割当て案作成
6週間前	・セミナー割当ての確認・調整	同時間にテーマの重複がないか
5週間前	・外部にセミナープログラム公開 ・セミナー参加登録の開始	Webサイトに掲載。各セミナーへの 事前登録人数が確認できます
3週間前	・出展者マニュアル「開催までのご 案内」を送信(PDF)	荷物送付方法、イベントの流れ、 展示・セミナー実施の諸注意など
前日	・送付荷物現地到着 ・前日準備(準備なしの場合もあり)	展示レイアウト完了後、展示ス ペースの設営が可能
開催日	・展示10:00~16:00 ・セミナー10:00~17:00	9:00~10:00準備時間 開催時間が異なる場合もあり
終了後	・セミナー発表資料の公開 ・アンケート集計結果のご報告 ・協賛費用の御請求・お支払	発表資料は、PDFか掲載先URLを Webサイトに掲載。

28

御見積もりおよび御請求

- 御見積書
 - 必要に応じて作成いたします
- 御請求
 - 開催月の月末に御請求書を発行・送付いたします
 - 開催日が月末の場合は、翌月の5日に発行・送付いたします
 - 開催前に御請求書の発行・送付がご希望の場合は対応させていただきます
 - お支払い期日は発行月の翌月末といたしますが、ご都合に合わせて対応させていただきます

29

年間協賛 御見積例(1)

- 年間ゴールド協賛

参加開催：東京2回(春/秋)※(1)・京都※(1)

・名古屋・北海道・福岡・他1開催(エンタープライズ以外)
※(1) 2日間開催

協賛費用：100万円(税別)

<特典>

不参加の開催※(2)でのロゴ掲載、資料配布

※(2) 特別企画の開催を除く

※年度の途中からの参加も可能です。ご相談ください。

30

年間協賛 御見積例(2)

- 年間ゴールド協賛

参加開催：東京2回(春/秋)^{※(1)}・京都^{※(1)}・名古屋・北海道・福岡・エンタープライズ(東京)・大阪 ※(1) 2日間開催

協賛費用：120万円(税別)

<特典>

不参加の開催^{※(2)}のロゴ掲載、資料配布

※(2) 特別企画の開催を除く

※年度の途中からの参加も可能です。ご相談ください

31

ノベルティご提供のお願い

- 来場者アンケートと引き換えに、くじ引きを行います
- ノベルティグッズ、書籍などぜひご提供ください
- Webサイトに提供元、画像を掲載しますので、プロモーションとしてもご活用いただけます



32

懇親会の開催

- 開催終了後に、出展者・講師・来場者・スタッフが集う懇親会を開催
- OSSコミュニティ関係者との交流を深める機会として好評
- 参加申込はOSC Webサイトにて
- 基本的には会費制の開催（領収書発行あり）

33

展示スペースのレイアウト

- 展示スペースのレイアウトは使用する会場の広さや出展者数により異なります
 - 最終的なレイアウトは開催準備の際に決定します
- 対面式
 - 机を挟んで来場者と対面式で展示が行えます
 - 来場者用通路が十分に確保できる場合に対面式になります
- 壁寄せ
 - 机を壁に寄せて配置します
 - 来場者と近い距離で説明が行えます
 - 会場により、壁にポスター等の貼り付けやパネル掲示が行えます
- 島型
 - 展示スペースの中央部分に机で島を作ります
 - 壁の利用ができません
 - 他の団体と向い合い、または、背中合わせとなります

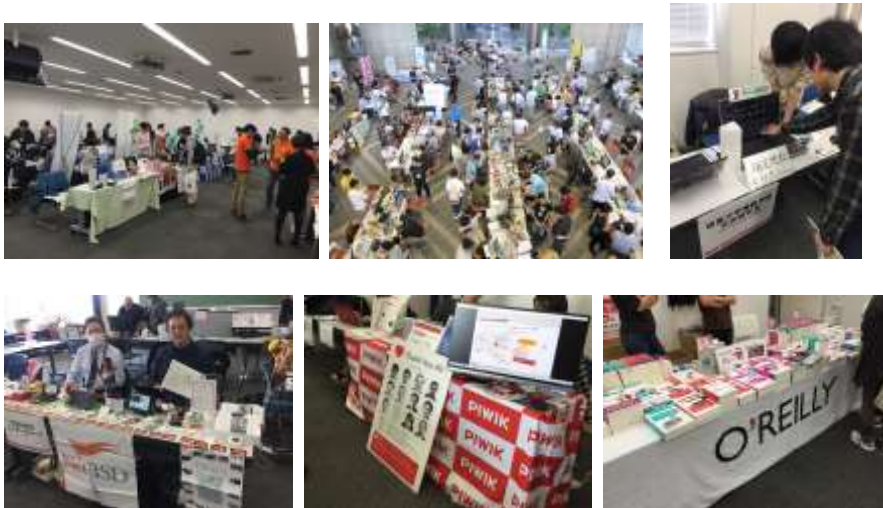
34

展示ブース(ご参考)-1



35

展示ブース(ご参考)-2



36

セミナー会場(ご参考)



37

年間協賛企業/後援団体

2017/11/28 現在

ゴールド

- Elastic
- SRA OSS, Inc. 日本支社
- TIS (株)
- (株)データダイレクト・ネットワークスジャパン
- 日本仮想化技術(株)
- 日本マイクロソフト(株)
- ニュータニックス・ジャパン合同会社

※この他、開催の都度、協賛・後援して
いただいている企業・団体は多数
(次ページ参照)

後援

- 特定非営利活動法人エルピーアイジャパン
- オープンソースビジネス推進協議会
- OSSコンソーシアム
- NPO法人ペーサー・ファウンデーション
- 日本UNIXユーザ会

ロゴ

- (株)創夢
- 三菱電機インフォメーションシステム(株)

38

参加協賛企業・後援団体 (OSC2017 Tokyo/Fall 参加一覧)

協賛

- ・Elastic
- ・TIS株式会社
- ・株式会社データダイレクト・ネットワークス・ジャパン
- ・日本仮想化技術株式会社
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・ニュータニックス・ジャパン合同会社
- ・NHN テコラス株式会社
- ・Oracle Corporation (MySQL Community Team)
- ・株式会社アイオーアーキテクト
- ・アシラス株式会社
- ・株式会社ウェブトップス
- ・サイオステックロジエ株式会社
- ・サイトブリッジ株式会社
- ・さくらインターネット株式会社
- ・株式会社 サードウェア
- ・株式会社 デージーネット
- ・東芝デジタルソリューションズ株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社日立製作所
- ・ミラクル・リナックス株式会社
- ・cybozu developer network
- ・NTTコムウェア株式会社
- ・wolfSSL, Inc.
- ・サイボウズ株式会社
- ・新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- ・株式会社たべかた
- ・株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ
- ・フューチャーアーキテクト株式会社
- ・三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社
- ・株式会社創夢
- ・@IT
- ・ThinkIT
- ・株式会社インプレス
- ・株式会社オライリー・ジャパン
- ・株式会社技術評論社(Software Design)
- ・株式会社秀和システム
- ・株式会社翔泳社
- ・ソフトバンククリエイティブ株式会社
- ・株式会社日経BP - 日経Linux
- ・株式会社マイナビ出版

後援

- ・特定非営利活動法人エルビーアイジャパン
- ・オープンソースビジネス推進協議会(OBCI)
- ・OSSコンソーシアム
- ・NPO法人ベーター・ファウンデーション
- ・NPO法人TOPPERSプロジェクト
- ・日本UNIXユーザ会

39

出展コミュニティ (OSC2017 Tokyo/Fall参加一覧)

■58団体

- ・adiaryユーザ会
- ・Analog & RaspberryPi電子ギーク団
- ・Bacula.jp
- ・baserCMS ユーザ会
- ・Cobalt Users Group/Project BlueQuartz
- ・Cpaw
- ・Debian JP Project / 東京エリアDebian勉強会
- ・Ejectコマンドユーザ会
- ・Endian Firewall Community Japan
- ・Future Versatile Group/MyDNS.JP
- ・Gentoo
- ・hook.io contributor
- ・Japanese Raspberry Pi Users Group
- ・Japan Open Grid (日本メタバース技術研究会)
- ・KOZOSプロジェクト
- ・Lagopus Users Community
- ・LeapMotionDevelopersJP
- ・LibreOffice 日本語チーム
- ・Linux-HA Japan Project
- ・mikutterユーザ会
- ・Mozilla翻訳コミュニティ
- ・Netpbm
- ・OpenStreetMap Japan
- ・OSSセキュリティ技術の会 (Secure OSS SIG)
- ・OSSライセンス姉崎相談所
- ・Plone Users Group Japan
- ・Rancher JP
- ・Scalix Users Community
- ・Tokyo HackerSpace
- ・Ubuntu Japanese Team
- ・WordPress 地域コミュニティ WordBench 東京・埼玉
- ・Xandrosers Community
- ・特定非営利活動法人オープンソースソフトウェア協会
- ・オープンソース(OSS)で中小企業のIT化
- ・オープンソース・ライセンスの談話室
- ・おーぶん万葉
- ・小江戸らぐ
- ・線型算術同好会
- ・低レベル勉強会
- ・東海道らぐ
- ・東京NixOSミーティング
- ・日本MySQLユーザ会
- ・日本NetBSDユーザグループ
- ・日本OpenSolarisユーザグループ
- ・日本OpenStackユーザ会
- ・日本 openSUSE ユーザ会
- ・日本Piwikユーザ会
- ・日本PostgreSQLユーザ会
- ・日本Sambaユーザ会
- ・日本xrdpユーザ会
- ・日本Zabbixユーザ会
- ・日本暗号通貨ユーザ会
- ・日本アンドロイドの会 Tangoワーキンググループ
- ・話せばわかるコンピュータの会
- ・秘密結社オープンフォース/日本Androidの会原子力部
- ・へにゃべんて
- ・明星大学 尼岡研究室
- ・ラズパイオーディオの会

40

OSC事務局で支援します！ お気軽にご相談ください

- セミナー企画、タイトル、概要作成など
- 出展ブースレイアウト等
- 配布物、ノベルティ等の制作
- その他OSCに関すること

事務局アドレス

osc2018@begi.net



41

フォトギャラリー



42